

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	0
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1
1. 一人ひとりの把握	5
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1490600168
法人名	有限会社セルフビーイング
事業所名	小規模多機能型居宅介護しおり
訪問調査日	平成26年3月22日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600168	事業の開始年月日	平成25年4月1日
		指定年月日	平成25年4月1日
法人名	有限会社セルフビーイング		
事業所名	小規模多機能型居宅介護しおり		
所在地	(240-0033) 横浜市保土ヶ谷区境木本町 3 7 番 8		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	9 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と変わらない環境で、第二の我が家として居心地の良い場になるよう心がけています。一人ひとりのニーズに合わせた決め細やかなサポートをし、急な対応（宿泊・通所・訪問）に応えられるようスタッフを配置しています。介護スタッフのうち半分が介護福祉士の資格をもち専門知識をもって介助にあたっています。できることを増やしていけるよう生活リハビリ（調理・食器洗い・洗濯干し・洗濯たたみ・園芸等）し役割をもち参加していただけるようにしています。また、機能訓練にも力をいれており、しおりオリジナル体操・嚥下体操・ペダルこぎ・歩行訓練・血行促進マッサージ・散歩等をしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年3月22日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①この事業所は(有)セルフビーイングの経営です。セルフビーイングは近くの平戸3丁目にデイハウスしおり（小規模なデイサービス：定員12名）、と居宅介護支援事業所しおりを運営しており、デイサービスとケアマネジャーのノウハウを持ってこの地に小規模多機能型居宅介護事業所を開設しました。この辺りは、以前は保土ヶ谷から戸塚までの間に駅が無く、林だったところですが、横須賀線に東戸塚駅が出来、環状2号線が出来てから発展が著しい地域です。古くは箱根駅伝の難所「権太坂」のハイランドの林と云った地域ですが、古い街並みが無い分、都市開発が容易で駅西側には横浜西年金事務所、駅東側にはニューシティ東戸塚の2棟の高層ビルとそれに連なる、西武を中心としたオーロラタウンが立ち並び、トレンドな街として発展しています。事業所のある地域は1戸建ての多い住宅地域で、落ち着いた環境です。事業所の建物はやや大きめの住宅といった井手たちで地域との違和感は全く無く、地域に溶け込んだ佇まいです。

②事業所の2つの理念は利用者の歴史を大切に、気持ちに沿ったサポートをすること、利用者及びご家族の立場に立って物事を考え、その人らしく活き活きと過ごせるようサポートすることで、その人を変えるのではなく、一人一人に合わせたサービスの提供を心掛けています。それぞれが「しおり」を利用する理由を考慮し、個々の生活歴に合ったサービスを考え、楽しみを見つけてあげたいと考えて日々、取り組んでいます。また、デイサービスのノウハウを活用して楽しみの幅を広げています。現在は、登録人数も半年で20名近くに伸び、取り組みが功を奏しています。

③職員の教育については、従業員の年齢が幅広く、画一的な研修だけではカバーしきれないと考え、個人のスキルに合わせた研修を心掛けています。特にスキルに違いがある項目としては、接遇、緊急時対応、終末期対応などで、OJTでの教育が必要なため、デイサービスとの交換研修を実施して研鑽しています。現在、介護福祉士が45%在籍し、待遇に差をつけると共に、資格取得を推奨し、勤務時間、シフトの優遇を図っています。様々な状況の利用者に対応する為、介護技術、接遇技術の質の向上に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護 しおり
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関先等に理念を掲げており、新人研修時、また会議等の様々な場面で職員に徹底させている。	事業所の2つの理念は利用者の歴史を大切にし、気持ちに沿ったサポートをすること、利用者及びご家族の立場に立って物事を考え、その人らしく生き活きと過ごせるようサポートすることで、その人を変えるのではなく、一人一人に合わせたサービスの提供です。その人の生活歴に合ったサービスを考え、楽しみを見つけてあげたいと考え、全職員が心掛けています。職員は全員、黄色のポロシャツを着ており、利用者が一目で職員であることがわかるように工夫しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、自治会の納涼祭等の行事にも参加し交流を深めている。また、事業所の外に掲示板を置いており施設内での行事を知らせボランティアの参加等をお願いしている。また、施設内だけではなく地域の方にも使用できるように、AEDを設置し掲示板で知らせている。	地域の自治会に加入し、事業所からのお便り等を配布しています。また、自治会の掲示板にも事業所での行事の案内を掲示したり、地域からも行事等の案内を掲示し、情報の交換も行っています。自治会の納涼祭等にも参加しています。ボランティアに関しては事業所内での行事と、必要なボランティアの案内をして参加を促しています。傾聴、アロマ、コーラス、人形劇、尺八の方が来てくれています。また、事業所の前に設置されている掲示板にAEDが常備されていることをアピールし、町内の方にも活用して頂けるよう知らせています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域コミュニティで開催する「地域でのささえあい講座」に参加し、認知症の方への接し方や介護の方法をわかりやすく説明している。随時、見学者を受け入れ、行事開催の折には、参加を呼び掛けている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、日々の取り組 みを報告すると共に、自治会等での困りごと等 を共有することで地域の一員としてのサービスの 向上へと繋げていく。	運営推進会議は定期的（2か月に1回）に開催して います。メンバーは自治会長、地域代表、地域包括 支援センターの方、横浜市保険医療ボランティアの 方、家族代表それに事業所関係者です。基本的には 日々の取り組み報告を行なうと共に、自治会等での 困りごとを共有することで地域の一員として共通の 認識を持ち、地域に貢献して行きたいと考えていま す。メンバーは開所以前から小規模設立に好意的 で、運営推進会議も常にほぼ全員出席で、自治会の 情報、備蓄の情報等を地域への広がりを援助してく れています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	地域ケアプラザ・区役所等と日ごろから連絡を 密にし、困難ケースの際は事業所だけの対応だ けでなく、様々な機関に連絡しサポートしても らいながら最善の対応ができるようにしてい る。	全国及び横浜市の小規模連絡会議が毎月あり、参加 しています。区役所や地域包括支援センターとは困 難ケース等があった場合に事業所連絡だけではなく、 様々な機関に連絡し、サポートしてもらいなが ら最善の対応が出来るよう連携を図っています。現 在、小規模連絡会では交換研修の計画も考えていま す。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、利用者も玄関先での日向ぼっこ等、自由に行き来が出来る状況になっている。身体拘束マニュアルがあり、職員が常に閲覧でき、また、会議等で周知の徹底をしている。	身体拘束については、その法令を理解し、身体拘束の弊害を周知し、マニュアルを作成し、会議で徹底し、職員が何時でも閲覧出来るようにしています。拘束は行っていません。日中は玄関の施錠はせず、職員の見守りで対応しています。天候の良い日は、利用者は、外に籐の椅子に座り、外気浴などで寛いでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日ごろから利用者の身体や表情・言葉等から、変化に気づけるように心がけ、また、家族との会話も多くし、介護負担等問題はないかヒヤリングしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士の資格を持ち、職員に対して会議等で学ぶ機会をもつようにし、また、外部研修等の参加も促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、十分時間を取り、読み上げながら、ご家族の表情にも気を配り、専門的な用語は、分かりやすい言葉に置き換えて、ご本人ご家族に説明している。特に費用の面は、実際の数字を提示し、負担する金額の承諾をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、コミュニケーションを図り、ご自身の気持ちが話せるような雰囲気作りをしている。また、ご家族とは、連絡帳はもちろんのこと、送迎の際にも1日の様子を伝えるようにしている。宿泊中に家族から電話があった際は、様子を伝えると共に、利用者本人にも替わってもらい元気な声を直接伝えている。	利用者とは日頃から、コミュニケーションを図り、自分の気持ちが話せるような雰囲気作りをしています。家族とは、連絡帳及び送迎の際に1日の様子等を伝えています。ケアマネは月1回のペースで利用者の自宅を訪問して話を聞き、状況の把握に努めています。宿泊中に家族から電話があった際にも、様子を伝えると共に、利用者本人にも替わってもらい、利用者の声を直接伝えてもらうよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議や申し送りノート等で職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に常に事務所のドアをオープンにしておくことで職員が気軽に話しができるように心がけている。	月1回の定例会議や申し送りノート等で職員の意見や提案を聞く機会を設けています。個別の相談、要望、悩み等があれば個別に面接する機会を設けています。また、気軽に話が出来よう、常時事務所のドアをオープンにしておくよう心がけています。日々の連絡等については、申し送りノートに記入し、職員は誰でも閲覧出来るようにしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、個人面談の機会を設け、個人個人の評価や目標を設定している。また、介護福祉士や介護支援専門員等の資格を支援する為に、試験前には連続して休みを取り、勉強に集中できる環境がつかれるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、経験年数等に合わせた外部研修に参加し、月に1回の会議で研修内容を報告するようにしている。また、経験年数の多い介護福祉士が職員の介護技術等の指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国小規模多機能連絡会に参加すると共に、今年から、横浜市小規模多機能連絡会に定期参加し、同業者との交流を通してサービスに質の向上を目指している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用決定時から、必ずご本人に直接会って、お話しをうかがうようにしている。その際は初対面の不安をできるだけ解消出来るように、笑顔と優しい口調を心がけ、ご本人が話しやすい雰囲気をつくるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とは別に、ご家族の話を聞く機会を作っている。ご本人には聞かせたくないご家族の本音を引き出し、不安や要望等についても時間をかけて聞き取るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要している支援を適切に提供できるかどうか、常に念頭において、小規模多機能のシステム（通所、宿泊、訪問）を丁寧に説明している。そのうえで、二ーズに会わない場合は別のサービスも説明しご本人とご家族が判断できるようにこころがけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人の歩んでこられた歴史を尊重し、人生の先輩として接するように心がけている。また、日々の生活の中で、一緒に笑いあえる時間を大切にしている。第二の家庭のような雰囲気作りを目指している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問しやすい雰囲気を作るように心がけている。時間があれば一緒に体操やゲームに参加していただくようにしている。訪問回数が増え、他の利用者の方とも顔なじみの関係を築けるようになっていく。また、ご家族だけの時間も持てるよう、個室での対面も随時行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、行きつけの美容院へお連れするようにしている。ご親戚や友人の方との面会も随時行っている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないことが小規模多機能の最大のメリットであるので、関係の維持・継続を支援しています。希望があれば、行きつけの美容院へもお連れしたり、親戚や友人の方との面会もご家族の同意を得て随時支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話がスムーズに行えるように職員が会話のきっかけを作るようにしている。孤立しそうな時は傍に寄り添い、他のご利用者とのコミュニケーションが図れるように、サポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了されても、電話連絡を行ったり、私物の返却時、ご家族の来所時等、機会を捉えて、その後のお話を聞くことで、繋がりを保ち、いつでも連絡していただけるような関係を作るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のご利用時に、ご利用者の表情を観察し、ご本人が自身の気持ちを表出できるように努めている。ささいな事でも、遠慮なくご希望を伝えていただけるように、お話ししている。暮らし方について、ご家族と意見が異なる場合は、まず、双方の気持ちを聞くようにし、時間をかけて歩み寄れるように支援している。	日々の介護の中で、利用者の表情・しぐさを観察し、本人が自身の気持ちを表現できるよう寄り添いながら支援しています。自分の意志を伝えるのが苦手な方には、声掛けして意見を聞いたり、発言が苦手な人には表情や仕草から意思を読み取るように努めています。些細な事でも、遠慮なく希望を伝えて頂けるよう話しています。基本的には申し送りノートに記録しますが、〇〇さん語録なども作っています。暮らし方についても、家族と意見が異なる場合には、まず、双方の気持ちを聞くようにし、時間をかけて歩み寄れるように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメント時は、出来るだけ時間をかけてお話を聞くように心がけている。前任のケアマネジャーから情報提供を受けて、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご自宅を訪問して日々の暮らしを自身の目で確かめるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の会、終わりの会でのご利用者の表情観察と言葉かけから日々の体調の確認している。日々の申し送り、日誌、看護記録、介護記録、夜勤録に目を通すようにし、現状を適切に把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書を作成し、ご本人ご家族に確認していただいて、担当者会議に臨むようにしている。利用初回時は、個人ファイルの閲覧「介護ノート」に計画のポイントと注意事項を必ず記載し、職員が確認、把握できるようにしている。現状に変化があった場合は、関係者と連絡を取り、共有できるよう努力している。	受け入れの段階ではケアマネが聞き取り、アセスメントを作成し、介護計画案を作ってカンファレンスで検討します。実際の受け入れ後は介護計画を作成し、利用者と家族に確認してもらった上で実施しています。利用初回時は、個人ファイルの閲覧「介護ノート」に計画のポイントと注意事項を必ず記載し、職員が確認、把握できるようにしています。現状に変化があった場合は、関係者と連絡を取り、共有できるよう努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子は個別介護記録に記載しご家族にも伝えている。詳細な日々の様子（宿泊者は夜間時の様子）は申し送り時に職員間で情報共有し、介護の実践に活かすように努めている。介護計画の見直し時には、再度目を通し現状を適切に把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居の方、ご家族と同居の方、主介護者が高齢である場合等、生活環境は一人ひとり違う為、それぞれの状況に即した対応ができるように、家族と連絡を密に取りながら、必要なサービスが行えるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の環境を大切にして、ご自宅での生活を継続できるように支援している。特に独居の方は一人暮らしを続けていけるか不安になる時があるので、安心して生活できるように食事面を重点に置いて支援している。またご近所の方との連携も大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関してはご利用時に確認を行っている。受診は原則、ご家族の付き添いをお願いしているが、その際は体調の報告を文書で行い、指示を仰いでいる。独居の方やご家族が付き添えない時は同行し、体調を報告して指示を仰ぎ家族に伝えている。また、予防注射、医療相談等は地域の連携医にお願いしている。	近隣在住の利用者が多く、かかりつけ医（主治医）は原則、従来通りで、受診は家族の付き添いをお願いしています。主治医の診断・指示等は連絡をもらい、事業所での体調等は文書で報告し、必要な指示を仰いでいます。独居の方やご家族が付き添えない時は同行し、体調を報告して指示を仰ぎ、ご家族に伝えています。また、地域の連携医（在宅医療施設）との提携が来ていますので予防注射、医療相談等の対応が可能な体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の様子や入浴時の皮膚の状態、座位保持の様子等、日常の変化を看護師に報告し、受診の判断等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や体調の変化があった時は必ず、医療機関に連絡し、看護サマリーを提出している。また、退院時は、現状を適切に把握するため、病院関係者と情報交換し、また看護師とともにリハビリ等を見学するなど、退院後の生活がスムーズに移行できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示の元、このままでは在宅での生活が難しくなると判断された場合はご本人やご家族と相談しながら、早めの対応を行っている。	主治医の指示のもと、このままでは在宅での生活が難しくなると判断された場合には本人やご家族と相談しながら、早めの対応を行っています。小規模多機能では原則看取りは行いませんが、在宅での看取りのサポートや宿泊中の急変なども考えられるため、地域の連携医（在宅医療施設）と提携を持ち、万一来備えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内はADE設置があるので、職員がすぐに使用できる状態である。定例会議等でヒヤリハットの報告や急変時・事故発生時の対応を勉強し周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、消防署の指導により、夜間避難訓練を実施し、消火器の使い方や避難誘導等の確認をした。また、実施の際は、近隣への協力の依頼をチラシにしポストインしている。倉庫に非常用の物品を備えている。	年に2回の避難訓練を計画し、昨年は、消防署の指導により、夜間避難訓練を実施し、消火器、避難ハッチの使い方や避難誘導等の確認をしています。防災については、運営推進会議でも確認し、実施の際には近隣へ協力の依頼をチラシにし、ポストインしています。倉庫に非常用の備蓄（水、乾パン、おかゆ、ガスコンロ、ヘルメット等）を3日分以上備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員は、ご利用者を人生の先輩として、常に尊敬の念を持ち、丁寧な言葉かけを行うようにしている。特に排泄の際の支援には尊厳を損なわないように注意を払っている。また入浴の際は個浴とし、肌の露出をしないように配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、全ての職員は、利用者を人生の先輩として、常に尊敬の念を持ち、丁寧な言葉かけを行うようにしています。特に排泄の際の支援には尊厳を損なわないように留意しています。また、入浴の際は個浴とし、肌の露出をしないように配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人の表出のサインを見逃さずに、声かけを行い、気持ちを伺うように注意を払っている。希望や不安に思っている事を引きだし、自身で判断していただくように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調等に合わせ、施設の時間にとらわれないようにしている。散歩や買い物、受診等、ご本人の思いや希望に沿った過ごし方が実現出来るようサポートしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行けない方は、事業所に美容師が来てカットをしてもらい、希望によってマニキュアをしてもらっている。また、外出や誕生日などの、特別な日には化粧をして写真を撮り、おしゃれを楽しんでもらっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、利用者に食べたい物を聞いて、一緒に作っている。ホットプレートや鍋を食卓に出し、目と香りでも楽しめるよう工夫している。また、後片付けも一緒に行うことで感想や要望も聞きとるようにし次に繋げている。	食材はレシピ付きで食材会社に委託しています。毎月、休日には利用者に食べたい物を聞いて、一緒に作る機会も作り、ホットプレートや鍋を食卓に出し、目と香りでも楽しめるよう工夫しています。家庭と同じ雰囲気です食事ができるように、陶器の食器を利用しています。また、後片付けも一緒に行うことで感想や要望も聞きとるようにし、次に繋げています。外食は個別に、ご家族対応等で行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者・家族に食事量や好き嫌い等の情報を得て食札を作成している。個々の嚥下状態に合わせて、刻み・とろみをつける等の対応をしている。夏などは水分チェック表を使用し、また水分が摂取しやすいように、スポーツドリンク等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に歯ブラシを持参してもらい、毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできる方は見守りし、できない方は看護師・職員が介助する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し、本人の排尿の時間を把握して声かけし、トイレ誘導をしている。一人ひとりの身体機能を職員が把握し、出来ることはご自身でしてもらう。	排泄表を使用し、本人の排尿の時間、回数、失敗の状況などを把握して、それを参考に声かけ、トイレ誘導をしています。タイミングを見計らうことも重要で、お茶の後とか食事前とか時間帯を見計らって、自然な流れで誘導しています。一人一人の身体機能を職員が把握し、出来ることはご自身でしてもらうよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便表を使用し、把握に努めている。また、宿泊になる日は家族に最終排便を確認している。食事の際には、繊維質の多い食物・ヨーグルト等を提供し、水分量にも注意をしている。また、毎日の体操で身体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人ずつゆっくりと入れるように配慮しており、入浴剤を使用し、ゆず湯・菖蒲湯など季節感も取り入れている。機械浴もあり、身体機能の変化等にも対応でき、体調によって入浴が出来ない際も、足浴器でリラックスできる。また、入浴拒否が強い方も時間をかえて入浴できるよう対応をしている。	入浴は、1人ずつゆっくりと入れるように配慮しています。時間、言葉のかけ方、好みのスタッフ等にも配慮しています。入浴剤を使用し、ゆず湯・菖蒲湯など季節感も取り入れています。機械浴もあり、身体機能の変化等にも対応できます。体調によって入浴が出来ない場合には、足浴器でリラックスして頂いています。また、入浴拒否が強い方も時間を変えて入浴できるよう対応をしています。脱衣所に設置しているホワイトボードには利用者の気になる点、注意点（外傷等）も申し送りがされており、身体チェックも併せて実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	宿泊室は洋室7室、和室2室とご自身の自宅での環境にあわせ、休息できるようになっている。夜間は個室にTVが置いてあり、寝付けないときなど、好きな番組を自由に観ることができる。日中でも、体調に応じて適宜、ソファや簡易ベット等で休養を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、処方箋があると共に、一覧表にして張り出すことで看護師だけではなく全ての職員が把握できるように努めている。利用者の受診日を把握し、服薬の変更がなかったかを確認している。送りノートに必ず記載し、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴の中から趣味や興味のあることを把握し、ご本人が張り合いをもって役割を担えるようにしている。その都度、感謝の気持ちを伝えることで、更に、意欲や喜びがもてるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の行事（花見・紅葉狩り・初詣等）の参加に加え、一人ひとりの希望に添い、日常必要な物の買い物をしている。また、天気の良い日には近隣の公園へ出掛けている。	四季には行事（花見・紅葉狩り・初詣等）を実施し、家族に知らせています。一人一人の希望に添い、日常必要な物の買い物や、天気の良い日には近隣の公園へ出掛けています。また、レクリーダが外出企画等を考え、他の職員に相談した上で、利用者の意見を聞き、実行しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や必要に応じてお金を所持してもらい、施設の金庫にて預かっている。日々必要なものや、衣類等は本人と一緒に近隣スーパーに出掛け好みの物を選んでもらい、支払いも職員がサポートしながらご自身で行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、プライバシーを保護するために、別室で会話をさせていただいている。また、ご家族から電話がかかってきた際は、ご利用者本人とも話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は常に清潔を保ち、心地よい音楽を流している。ご利用者が作成した1ヶ月ごとのちぎり絵カレンダーを居室に張り出している。また、個人個人の塗り絵等を額に入れて施設内に飾っている。	施設内は常に清潔を保ち、心地よい音楽を流しています。利用者が作成した1ヶ月ごとのちぎり絵カレンダーを居室に張り出しています。また、個人個人のぬり絵等を額に入れて事業所内に飾っています。リビングには、丸型、角型等のテーブルを取り揃え、関係性を考えた座席配置を行っています。一人用のリクライニングチェアや、和室に掘りごたつを採用して、心地よい通所を過ごして頂けるよう工夫しています。病院のリハビリに使うペダル漕ぎの機材も置き、活用しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内には、1人掛けのリクライニングチェアや2人掛けのソファがあり、個人個人がのんびりと過ごせるスペースを確保している。また、テーブルの形状を丸型・四角型にし、個々の関係性を配慮して座ってもらっている。和室は掘りごたつになっており、居心地のよい家庭的なスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室ドアが稼動式になっている部屋があり、ご夫婦で宿泊の際は、二間続きにすることができる。また、長期滞在者は、家族の写真を飾ったり馴染みの物を置いたりして出来るだけ自室の雰囲気近づける工夫をしている。	宿泊部屋は事業所の2階に9部屋あり、そのうち4部屋が可動式の部屋になっています。夫婦で宿泊の際は二間続きに出来るよう工夫されています。また、長期滞在されている方も居り、家族の写真や、馴染の物を持ち込んでもらい、自宅に近い雰囲気過ごせる様に工夫しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を把握し、個別支援をしている。施設内の要所要所で手すりを設置し、環境整備をすることで、できることが多くなるように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

作成日

小規模多機能型居宅介護 しおり

2014年3月22日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	他事業者と交流する機会が少ないため、事業所のサービスの質の向上の機会が得られない。	他事業者との交流の機会を得て、事業所の見直し等、サービスの向上を目指す。	横浜市小規模多機能連絡会への入会と、定期連絡会の参加。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。